

相生デイサービス新聞

発行所
相生DS
44-4165

新芽 萌え出ずる頃

寒の入りでさすがに寒さ厳しくなりましたが、足もとのやわらかな土からは小さな芽がのぞいていきます。確かなひとつのいのちが春を待ちわびていました。

名句

七日客
七種粥の残りなど

虚子

おせち料理



黒豆は健康ごまめに

数の子は 子孫繁栄
昆布巻は よろこぶ
田作りは 五穀豊穡



紅白のがまほしは 祝いを表す



会津の冬 柳津 1989年 紙・木版 斎藤清



今が旬

西のふぐ
東の(?)



「吊るし切り」

我が街の風物詩



今月の予定

11(水)	12(木)	13(金)	16(月)	18(水)	21(土)	23(月)	25(水)	26(木)	28(土)	※5(木)	11(水)
足利伊勢宮	脳トレ(川島様)	つっじ華の会	習字	春さんと仲間たち	藤美会	よさこいポパイ	音楽(小林様)	大正琴(丸山様)	ハーモニカ	初詣	

床屋さん
11(水)
19(木)
27(金)



豆知識

年賀状

郵便制度のできた明治4年以降に始まりました。明治も終わりに近くなると今日と同じようになつたそうです。

思い出の名画



1958年

「先生、ユーモアくらぶ主人がひどく疲れた様子で...しばらく保養させたいのですが。海と山どちらかよろしいでしょうか」
「そう、御主人が山へ行かれて、奥様が海へ行かれると一番よろしいかと」

疑惑の糸が
巧妙な犯罪に絡みつく
清張の作品はどれもオモシロイ

寒鰯()
寒木瓜()
寒屠蘇()

天声珍語

Y子さん、早々と年賀状をありがとうございます。私宛の数少ない年賀状の中からY子さんの名を見つけた時、懐かしさでいっぱいになりました。

返事を送った夜、Y子さんに行った奥利根の春を思った。雪にはうすく雪が残っていた。フキノトウを見つけたのはふたり無邪気に喜こんだ。妻の知らぬふたりの思い出。儀礼的な年賀状の中にも濃密でほろ苦い人生がある。そんな一枚が今日もどきかのポストに投函される。

ススム